

楽しく配色を学べるパステル画

Pleasant Learning of Color Combination by Pastel Drawing

乾 宏子 Hiroko Inui アトリエ エクリュ ATELIER ECRU
富本いちこ Ichiko Tomimoto カラーコレクション Color Collection
市場丈規 Takenori Ichiba Color Lab. for full Life

Keywords : パステル画, 癒し効果, 配色演習, パステル画専用ステンシル.

1. はじめに

本発表でいうパステル画はパステルを粉にし、指につけて描く手法である。初めての人でもこの手法で簡単に素敵なアート作品を描くことができる。体験者の多くは「指で直接画用紙に色を塗るのは、心地よく癒される」と言い、初めての作品の出来栄えに驚きながら「楽しい、またしたい」という感想を述べる。

パステル画は震災ボランティアの活動（図1）にも取り入れられ、被災者の心の癒しとなったという報告もされている。そして、その手軽さから市民講座や親子教室、高齢者向け介護予防教室等で急速に広がりつつある。一方で、作品を作りながら楽しく配色演習ができるツールとして色彩講師からも注目されている。

本発表では、独自に開発した指で描くパステル画専用ステンシルを用いた配色演習例を示しながら必要なツールや描画手順の一部を提示し、初心者や一般の方々が楽しみながら簡単に配色を学べるひとつの方法論として手法を紹介する。

2. 専用ツールの開発

絵心がなくても簡単にパステル画を描くための必須ツールであるステンシルや画用紙の固定・マスキングするツールがこれまでなかった。そのため、指導者による手作りのステンシルや手作

業によるマスキングなどの準備は大きな負担を伴い、課題とされていた。そこでまず、パステル画専用ステンシルとマスキング台（図2）を開発し、単純な幾何学模様や曲線を簡単に描けるようにした。

3. 描画方法

<用意するもの>

パステル, 竹べら, 画用紙, マスキング台, パステル画専用ステンシル, 練り消しゴム, 綿棒, フィキサスプレー

<描画手順>

- ① 画用紙をマスキング台にセットする。
- ② パステルを竹べら等で削って粉にする。
- ③ 指にパステル粉をつけて画用紙に描く。
- ④ 型抜きや型に沿った色付けをする場合は専用ステンシルを置いて練り消しゴムで型に沿って消したり、色をつけたりする。

4. 配色演習例

パステル画は作品を描きながら、色相配色、トーン配色、色相分割による配色、ナチュラルハーモニーやコンプレックスハーモニーなどの配色の基礎やパーソナルカラー4シーズン各シーズンパレットの配色などの配色演習を行うのに適した素材である。

専用ステンシルを使うことで色だけでなく形のイメージも加わり多様な配色演習ができる点も魅力のひとつである。



図1. 震災ボランティアでの活動風景

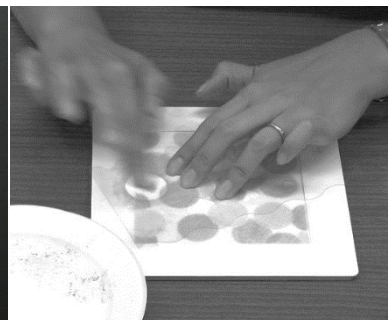


図2. パステル画専用ステンシルとマスキング台（左）および描画風景

配色演習例を図3～図7に示す。



図3. 類似色相配色



図7. パーソナルカラーの夏の配色

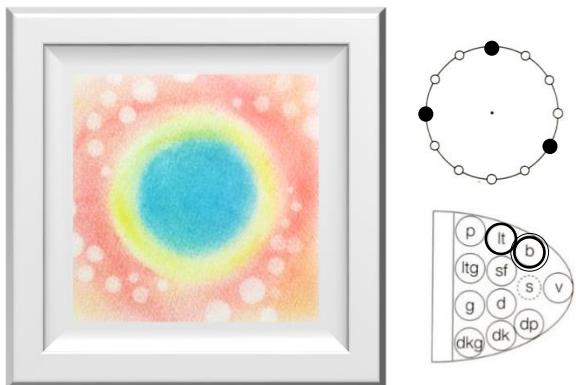


図4. 対照色相配色

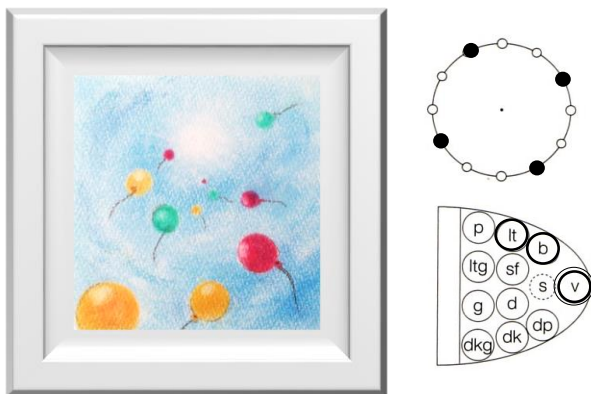


図5. テトラード：4色配色



図6. パーソナルカラーの春の配色

図3から図5は基礎的な配色例である。図6はブライトトーンのイメージと大小の丸とハートのステンシルを使うことで春のカラーパレットの陽気で弾むような生き生きとしたイメージを表現している。一方図7はライトトーンのイメージと楕円形のステンシルを使うことで夏のカラーパレットの優しく繊細でフェミニンなイメージを表現している。

5. まとめ

一般的な配色演習に使われるカラーカードによる配色バーは味気のないものでありイメージがしにくい。他の手法としてコラージュもあるが、コラージュの素材集めのなどの事前の準備が大変で指導者の負担も大きく、受講生にとっては使いたい色やイメージのものが自由に使えないという不満も生じる。一方パステル画はパステルという性質を考えると高彩度色が描けないと考えがちだが、高彩度色から低彩度色まで自由に描くことができるため、配色演習には適した素材である。パステル粉を混ぜることで混色も思いのままに、発色も鮮やかである。専用ツールを用いることで事前の準備や後片付けも簡単である。

配色演習のみにとどまらず子供から高齢者まで安全で手軽にしかも楽しみながら色に親しめる点、指を使って描くことで色を体で感じることができるため“心のデトックス効果”として心理面での効果も大きい点などを考えるとこれからますます広がる可能性のある手法と考えられる。

今後は色彩講師が簡単にパステル画を指導できるようにパステル画集などの制作が課題といえそうである。